故　佐々木賢治について

（通夜で遺族代表として、私がお話したことの概略）

父は、昭和5年2月に函館市中島町で生まれました。祖父は、変電所に勤めておりました。男兄弟の多い中で、元気よく育ちました。
　ある時、亀田川に落ちて、瀕死の状態となりましたが、乞食に助けてもらったそうです。その時の命を助けてもらったことが心に残ったのは、「人に優しくする」ということは、生涯貫いていました。
　函館商業高校、昔は、今の芸術ホールの駐車場のところにあり、私も体育館だけ残っていたのを小さな頃の思い出として残っています。
　商業を卒業後、函館米穀に勤めました。今は万代町にありますが、当時はボーニの斜め向かい（今のローソン）にありました。
　そこで母、壽子と知り合い、昭和33年に結婚し、その頃、柏木町に家を建てました。家には、祖父、祖母が同居していました。
昭和35年に私が、45年に弟が生まれました。
　私にとって、父は仕事一筋といった感じで、毎日電車で通い、結構帰りも遅かったのを覚えています。
　父は、自動車安全運行や保険の関係の仕事が多かったようで、事故が起こると、夜中でも家を飛び出していき、ケガをされた方に輸血を申し出るなど、がんばっていました。また、社用車の安全運行に力を注いだと聞いています。
　70歳近くまで函館米穀に勤め、やっと一段落という頃から、母の健康が優れなくなり、東京の病院なども難解も連れて行ったり、市内の病院に入ると、毎日見舞ったりしていました。その母も平成21年に亡くなりました。その直後は、非常に落ち込んでおり、一人で暮らせないと判断して、私たち夫婦と一緒にしばらくの間暮らしました。しだいに元気を取り戻し、柏木町の家で、一人暮らしを始めました。家もリフォームをし、快適な生活を送っていました。
　ホームヘルパーに来てもらい、食事の支度をしてもらい、週に何回かは、デーサービスに出かけ、みなさんとの交流も楽しんでいました。また、趣味で囲碁、カラオケ、詩吟などにも取り組み、毎日を楽しんでおりました。特に詩吟には力が入っていたようで、部屋にはたくさんの書籍やファイルなどがありました。
　また、ボランティアとして、町内会活動にも積極的に関わり、資源回収や、ゴミ拾いなどにも精を出していました。
　本年平成28年、私の孫、父にとっては、ひ孫が生まれ、とても喜んでおりました。また、秋には、かねてから希望していた京都旅行も私たちと一緒に出かけ、嵐山や京都御所、二条城などの見学を楽しみました。ですから、今年は、父にとって、思い出多い

一年であったことは間違いありません。
　習い事など、ボランティア活動などで充実していた毎日を過ごしておりましたが、１１月１７日デーサービスに出かけた折に体調を崩し、近くの内科に運ばれました。精密検査をしたところ、片肺に軽い肺炎を患っていました。息が苦しいため、酸素をかけると共に抗生物質による治療が開始されました。その時の話では一週間くらいで直るであろうということでした。四日市にいる弟も呼び寄せましたが、対応はまだまだ、元気でした。
　入院中もとても元気で、毎日新聞を読んだり、テレビを見たりしていました。もうすぐ退院かと思った２５日、病院から意識がなくなったとの連絡を受け、急いで病院へ向かいました。医師の説明によると、もう片方の肺も炎症を起こして、体の二酸化炭素をはき出すのがゆるくないようだということです。体の方も年齢もあり、だんだん弱くなってきているとのことでした。私が病院に着いたのは午後６時頃、面会が終わる８時まで病室にいました。弟も夜にかけつけ、次の日の朝一番に会いに行こうということにしました。
　１１月２６日病院から電話が入り、「状態が悪いです。すぐ来れますか。」と連絡が入り、函館に宿泊していた弟が先着しましたが、その時には息を引き取っていました。死因は肺炎でした。高齢者の肺炎はこわいという話を聞いていましたが、まさにそう思いました。
　７年前に私は母親を亡くしましたが、親が亡くなる時、「もう、あぶないかな。」とは思っていても、心の準備というものはなかなかできるものではありません。現実は現実として受け止めますが、なかなか実感としてはすぐ沸いてこないものです。きっとこれから、香典の整理や年賀欠礼などを出す時に「父さん、この方とはどんな関係だったの？」と聞きたくても、聞く術がない時、実感として、「もう二度と会えない、話せない。」ということが身にしみてくるのだと思います。
　私は、父からは、「人のためにつくすこと。」「仕事を一生懸命やること」を学びました。私も退職まで、もう少しという年齢に近づきましたが、仕事はまじめに、きちっとやり、人に喜んでもらえるようにがんばります。また、退職後は、銭亀町に住む予定ですが、町内会活動やボランティア活動などに携わっていきたいと思います。
　これからは、弟と私の二人になりますが、皆様の力添えをいただきながら、がんばっていきたいと思います。本日は、寒い中、お通夜にお参りに来ていていただき、ありがとうございました。皆様方のご健康を願いつつ、喪主のお話とさせていただきます。ありがとうございました。